淑　徳　大　学　広　報　誌

Together

SHUKUTOKU

https://www.shukutoku.ac.jp

No. 229　2020. 1. 1 Winter

特集1

利他共生の実践を

学生、教職員がチームで行った災害ボランティア活動

特集2

コミュニティ政策学部開設10年記念

シンポジウム

「コミュニティ政策と人々の暮らし」コミュニティ政策学部、10年の軌跡

学長メッセージ

子年考

ともいきのこころ

長谷川良信先生の足跡・3

～写真から広がる長谷川良信先生の世界～

Campus News

知識モリモリ×福祉の仕事

資格は仕事にどのように活かされるのか

Cover Person

小川 旺洋さん

（経営学科2年）

一季一言

子年考

淑徳大学　学長　磯岡（いそおか）　哲也（てつや）

今年は子年で、これは十干十二支から由来します。十干とは、木・火・土・金・水の五行を、それぞれ陽と陰の気を表す「え」と「と」とに分けたもので、漢字は、甲（きのえ）・乙（きのと）―後略―です。これに十二支の子（ね）・丑（うし）―後略―を順に割り当て、甲子（きのえね）・乙丑（きのとうし）と表します。これで十と十二の最小公倍数六十の組み合わせができ、これを十干十二支というのです。

博覧強記で有名な南方熊楠に『十二支考』「鼠に関する民俗と信念」があります。南方は、十二支に動物を割り当てる文化は中国から韓半島や日本に伝わったと考えます。現代でも「子年」でネット検索すれば夥しい数の性格や運勢のサイトに出会えます。共通点は、ネズミの旺盛な生命力・繁殖力のイメージから、「将来食べるのに困らない」「子宝に恵まれる」等です。干支占いは韓国でも盛んです。

古今東西、ネズミは、農産物を食べ伝染病をもたらす害毒とみなされてきました。反面身近な存在で、年配者なら就寝時、ネズミが天井を走る音を聞いた経験を持つ人は少なくないでしょう。若者なら、ミッキーマウスやハムスターのように親しみを感じることでしょう。

南方も、大黒天の絵画にネズミが眷属として描かれていること、仏典にネズミの肯定的な役割が記されていること等を挙げています。たとえば「王舎城の迦蘭陀竹園は無双の勝地で、一切の害虫もなく、もし害虫がこの園に入らば毒心がなくなる。衆生この園に入らば、貪欲、瞋恚、愚痴を発せず」という竹園があり、この「迦蘭陀は山鼠の名なり」とネズミ由来を指摘しております。南方は、他にもいくつかの例を挙げ、ネズミは「全く無益なものでないと判る」と結論づけているのです。

子年の福にあやかり、今年も一歩一歩、ともに学んで参りましょう。

VR論博プログラムで初の学位授与、第4期プログラムもはじまりました

淑徳大学の附属機関であるアジア国際社会福祉研究所では、アジア諸国の博士論文を書き上げる準備のある方のために、「ビジティング・リサーチャー（VR）論博プログラム」として、博士論文を完成し、学位を取得するための機会を提供しています。

9月26日（木）、2016年度第1期VRとして来日したワンワディー・ポンポクシン先生が淑徳大学総合福祉研究科学位授与式において、「博士号」の学位を授与されました。

ワンワディー・ポンポクシン先生

そして10月3日（木）、第4期VRプログラムに参加されるオマルペ・ソマナンダ先生が、スリランカ・コロンボより来日されました。ソマナンダ先生は、「スリランカの社会には西欧生まれのソーシャルワークの教育では通用しないことがある。仏教の経典を研究し、スリランカ社会に合う教育を構築したい」と話されています。

オマルペ・ソマナンダ師

女子ソフトボール部 第50回 関東大学ソフトボール選手権大会 優勝!!

たくさんのご声援ありがとうございました！

10月27日（日）～29日（火）、埼玉県鴻巣市で行われた「第50回 関東大学ソフトボール選手権大会」において、ソフトボール部が優勝しました。

準々決勝では、教育学部3年の寺田愛友さんが自身初のノーヒットノーランを達成し、優勝に大きく貢献しました。大会中、沢山のご声援をいただきありがとうございました。引き続き、ソフトボール部の応援をよろしくお願いいたします。

※雨天により、決勝戦は中止となったため、東京女子体育大学と同時優勝です。

淑徳大学は「高等教育の修学支援新制度」対象校に認定されました

淑徳大学は、2020年4月から国が実施を予定している住民税非課税及び非課税に準ずる世帯等を対象とした「高等教育の修学支援新制度」（授業料等減免、給付型奨学金）の対象校に選定されました。

この制度の利用には申請手続きが必要です。詳細は決まり次第、大学のホームページ等でお知らせいたします。

詳細は決まり次第、下記からお知らせいたします。

https://www.shukutoku.ac.jp/news/univ/post_177_37823.html

マレーシア教育大臣に第1号の名誉博士号を授与、国立サバ大学とMOUを締結

淑徳大学は、教育・研究での連携を深めることを目的に、マレーシア国立サバ大学とMOU（了解覚書）を締結しました。東京キャンパスが所在する板橋区の坂本健区長に架け橋となって頂き、12月4日（水）に板橋区役所にて、磯岡学長等が出席し、締結式が執り行われました。

マズリーマリク教育大臣に淑徳大学初の名誉博士号を授与しました。5日（木）の千葉キャンパスの成道会の後、授与式が執り行われました。

式典終了後は、歓迎夕食会で懇談を深められました。今後より一層、マレーシア国との関係を深めて参ります。

教育改革 No.3

1年次からの豊富な体験型学習

埼玉キャンパスでは、学外における体験型学習を教育の柱の一つとし、1年次からのカリキュラムに取り入れています。学生たちは、この体験型学習での経験を通して、「子どもたち」「企業」「地域社会」とのつながりを育み、座学だけでは学べない知識や技能を身に着けていきます。教育学部では小学校・幼稚園・保育園、経営学部では金融・ファッション・物流・旅行・ブライダルなど、多様な現場から、学生の希望する進路に合わせて実習先を選択することが可能です。また、1年次から経験を積める機会があるからこそ、前回の反省点や課題を、次回の実習等で克服できる点もポイントです。

COVER PERSON　表紙の人　No. 229

私は、バーンゴルフ部に所属し、日々活動しています。

バーンゴルフは日本ではマイナーですが、北欧では広く愛されているスポーツです。大学に入学して、「珍しいものをやってみたい」という気持ちから始めました。このスポーツは、社会福祉の増進も目的としていることもあり、老若男女問わず楽しめます。

私たちも、三芳町役場として参画している老人クラブの方々とも交流しながら競技に取り組んでいます。現在埼玉キャンパスの中では、部活動として地域連携している唯一の部活でもあります。

今後の目標としては、正責任者として自分たちの部活を盛り上げていきたいと考えています。私たちの部活は、淑徳大学埼玉キャンパスの中でも最も長い歴史を持つ部活動の1つであり、年次報告の際に学長から「是非絶やさないでください」というお言葉をいただきました。このご期待に応えるためにも、積極的に新入生の勧誘に取組みつつ、バーンゴルフの楽しさを色々な人に伝えていきたいです。

経営学部　経営学科　2年
小川（おがわ）　旺洋（あきひろ）　さん

特集① 利 他 共 生 の 実 践 を

学生、教職員がチームで行った災害ボランティア活動

令和元年台風第15号および第19号は千葉県、東京都、埼玉県他広域に大きな被害をもたらしました。淑徳大学では、発災直後より在学生、同窓生の被害状況の把握と対応を進めました。

また、地域支援ボランティアセンターでは、在学生、教職員に「被災地の方々と共にありたい」というメッセージを配信、共有を図りつつ、現地の状況把握をすすめました。

市町村に設置される「災害ボランティアセンター」や千葉県社会福祉協議会と調整のうえ、受け入れ可能な地域にいち早く向かうことができるよう、移動にはスクールバスも活用し、学生、教職員のチームによる災害ボランティア活動に取り組みました。

活動内容は、農家のビニールハウスの解体作業、民家の後片付け、泥かき作業が主でしたが、学生、教職員共に熱心に災害支援活動を行う中で、台風によって被災した現地の状況を直に感じると共に、現地の方々に直接お話を伺うことができ、貴重な経験となりました。

週末を利用し、3地域、5回、延べ56人の学生・教職員が現地に向かいました。住民に寄り添いながら活動した学生、教職員が感じたことをお伝えします。

今後に向けて～被災された「地域」と「人」に引き続き寄り添いを

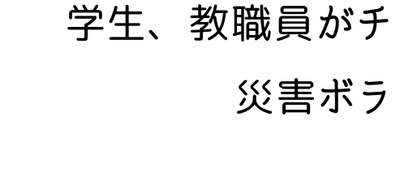
地域支援ボランティアセンター長　**山下興一郎**

今回の台風、大雨被害によるボランティア活動は、東日本大震災以来の全学をあげての活動となりました。現地との調整の結果、千葉県内の活動が中心とはなりましたが、支援先の検討においては、埼玉県、東京都、長野県、福島県他広域な範囲の調整をしました。

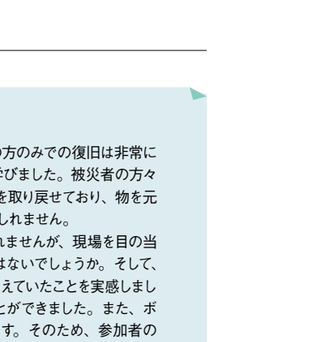
各地の災害ボランティアセンターの活動は、現在は縮小傾向となっていますが、被災者の生活再建はこれからとなります。「他者に生かされ、他者を生かし、共に生きる」という利他共生の理念に基づいた活動は、今回の災害時の支援のみならず、これからの生活にも私たちは関心を寄せて、私たちにできることは何かを考え、能動的にボランティア活動などを通した地域連携を具体的に進めていく必要があります。

2019年 災害ボランティア活動状況

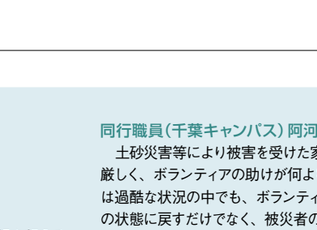
◆**9月22日（日）**
千葉県八街市
（農家のビニールハウス解体など）
学生10名、教職員3名

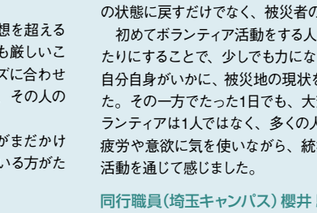


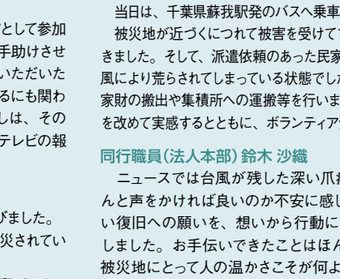
◆**9月28日（土）**
千葉県八街市
（農家のビニールハウス解体など）
学生6名、教職員5名



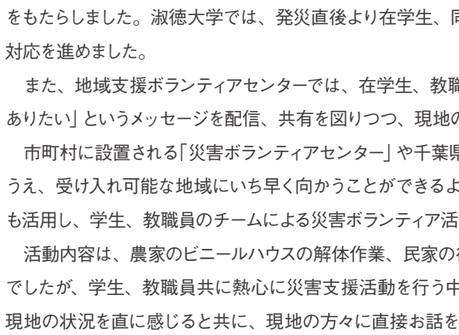
◆**10月6日（日）**
千葉県南房総市
（居宅片付けなど）
学生9名、教職員5名

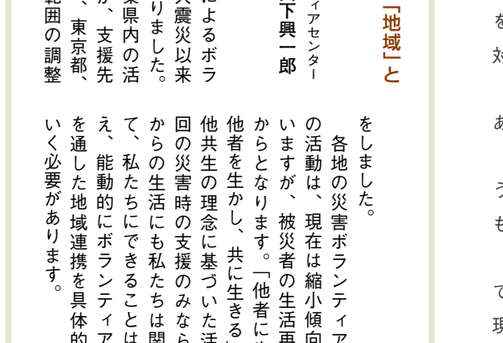




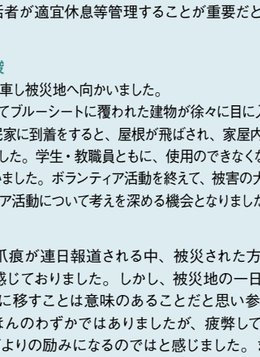


◆**11月10日（日）**
千葉県長柄町（居宅泥掻きなど）
学生6名、教職員4名





◆**11月16日（土）**
千葉県長柄町（居宅泥掻きなど）
学生6名、教職員2名



ボランティアに参加した学生&職員より

山口 美怜さん（千葉キャンパス）

祖母が館山に住んでおり、被害状況を耳にはしていましたが、予想を超える被害で、お年寄りにとってみれば、肉体的のみではなく、精神的にも厳しいことなのだということを実感しました。支援を必要としている人のニーズに合わせた支援をすることの重要性や、被害にあったものは、ゴミではなく、その人の財産なのだということを学ぶことができました。

行き、帰りのバスから周りを見渡すと、屋根には、ブルーシートがまだかけられていて、台風の爪跡が生々しかったです。まだ支援を必要としている方がたくさんいるのだと感じました。

若杉 綾香さん（千葉第二キャンパス）

テレビを見て大変そうだと考えていた時に比べ、実際にボランティアとして参加したら、その大変さは予想以上でした。しかし被災した方々の復興を手助けさせていただきたいと強く思うようになりました。今回、お手伝いさせていただいた家の方は、笑顔で話をされていました。土砂による不安や心配事があるにも関わらず、他の家の被害が大きいのでは？と心配をされていました。わたしは、その他の方を思いやる気持ちが凄いと思いました。作業は大変でしたが、テレビの報道だけでは分からなかったことがたくさんありました。

杉田 歩夢さん（東京キャンパス）

私は東日本の震災の時も、ボランティアとして東日本の地に足を運びました。

今回の千葉の台風の災害も私の地元は被害はなかったですが、被災されている方が多くいると聞いて是非ボランティアに参加したいと思いました。

活動してみて、土砂は水分を含んでいてとても重く、200袋ぐらい土嚢がでました。活動を終えてからそこの家の方にとても感謝をされて、少しでも力になれてよかったと思います。これからもこのような活動があったら参加していきたいと思います。

同行職員（千葉キャンパス）阿河 伶太

土砂災害等により被害を受けた家屋は、被災した世帯の方のみでの復旧は非常に厳しく、ボランティアの助けが何よりも必要であることを学びました。被災者の方々は過酷な状況の中でも、ボランティアの支援によって笑顔を取り戻せており、物を元の状態に戻すだけでなく、被災者の心も救えているのかもしれません。

初めてボランティア活動をする人は不安も覚えるかもしれませんが、現場を目の当たりにすることで、少しでも力になりたい想いを抱くのではないでしょうか。そして、自分自身がいかに、被災地の現状を報道の中の話として捉えていたことを実感しました。その一方でたった1日でも、大変貴重な経験をすることができました。また、ボランティアは1人ではなく、多くの人が協力して行うものです。そのため、参加者の疲労や意欲に気を使いながら、統括者が適宜休息等管理することが重要だと、本活動を通じて感じました。

同行職員（埼玉キャンパス）櫻井 駿

当日は、千葉県蘇我駅発のバスへ乗車し被災地へ向かいました。

被災地が近づくにつれて被害を受けてブルーシートに覆われた建物が徐々に目に入ってきました。そして、派遣依頼のあった民家に到着をすると、屋根が飛ばされ、家屋内が雨風により荒らされてしまっている状態でした。学生・教職員ともに、使用のできなくなった家財の搬出や集積所への運搬等を行いました。ボランティア活動を終えて、被害の大きさを改めて実感するとともに、ボランティア活動について考えを深める機会となりました。

同行職員（法人本部）鈴木 沙織

ニュースでは台風が残した深い爪痕が連日報道される中、被災された方になんと声をかければ良いのか不安に感じておりました。しかし、被災地の一日も早い復旧への願いを、想いから行動に移すことは意味のあることだと思い参加致しました。お手伝いできたことはほんのわずかではありましたが、疲弊している被災地にとって人の温かさこそが何よりの励みになるのではと感じました。また、学生の皆さんがそれぞれ熱い気持ちを胸に自主的に参加し、汗と泥で真っ黒になりながらも手を止めることなく行動する姿に感銘を受けました。困っている人に手を差し伸べてあげられるその純粋な気持ちをこれからも忘れないでほしいと思います。

募金活動実施中

4キャンパスが協力をして日本赤十字災害義援金募金を展開し、2020年2月まで募金活動をおこなっています。

特集 2

コミュニティ政策学部
開設10年記念

シンポジウム

「コミュニティ政策と人々の暮らし」
コミュニティ政策学部、10年の軌跡

コミュニティ政策学部開設10年記念シンポジウムが11月16日（土）に本学千葉キャンパスにて開催されました。

基調講演では「コミュニティ政策と人々の暮らし」と題してコミュニティ政策学会会長 名和田 是彦氏（法政大学大学院教授）が登壇されました。コミュニティ政策の歴史的成り立ちは明治期の市町村大合併の時代から、地域社会の向上を目的としたとされる説明がなされ、平成の大合併で再度、議論が活発化している、と提起されました。

基調講演

名和田 是彦教授（法政大学大学院）

日本の都市内分権は他国とも比較しても「協働」の側面が強く、地域がどこまで課題解決機能を担えるのかが政策的な課題である。また「参加」の側面にも留意してコミュニティ政策を検討することが重要だ。

パネルディスカッションでは、コーディネーターとしてコミュニティ政策学部 鏡 諭教授から金井 利之氏（東京大学大学院教授）、コミュニティ政策学部 矢尾板 俊平教授がパネラーとして紹介され、基調講演を行った名和田 是彦教授とともに、基調講演をまとめる形でディスカッションがスタートしました。

矢尾板 俊平教授（本学 コミュニティ政策学部）

コミュニティ政策の基盤となるのは「ソーシャルキャピタル」の存在である。地域で多様な人々が生活を営む中で、コミュニティを紡ぐ機能をいかに構築していくかということが鍵となる。「コレクティブ・インパクト」等の新しい発想を取り入れていくべき。

金井 利之教授（東京大学大学院）

「住民自治」と昨今叫ばれるが、現在では個人が独立しているので、行政は強制力を持てなくなった。住民に活力がない時は、行政の活力も落ちている。コミュニティ政策とは、人間関係がないところに、その関係を作る取り組みで、市場・政府以外の論理が必要で、必ずしも多数派が良いわけでもない。今後はそのような取り組みが必要。

コーディネーター

鏡 諭教授（本学 コミュニティ政策学部）

田園都市構想を思い出し、人の生き方、暮らし方を再度見習うことを思案したい。

開設10年記念シンポジウムを終えて
—— 歴代学部長より

学生諸君主体の教育への取り組み

初代学部長

淑徳大学 学長
いそおか てつや
磯岡 哲也

設立10年おめでとうございます。その前年から学部長予定者として、先輩や同僚教職員の仲間と開設準備の仕事に没頭したことは忘れられないよい思い出となっております。私たちは、新しい教育体系であった学士課程教育をいち早く取り入れました。それは、教員が教えたい授業から、学生諸君主体の、社会ですぐに必要とされる汎用的な学士力を確実に身につける教育への移行でした。じっさい、学生諸君はこれに熱心に取り組まれ、幾度となく目をみはる思いをいたしました。アクティブラーニング、サービスラーニング等々、新機軸を実現してきた10年でありました。今後も、学生諸君のより深い学びを支援できるような、高等教育の最先端をいく学部であり続けていただきたいと念願しております。

「夢を語る言葉」と「日常を慈しむ言葉」

前学部長

コミュニティ政策学部
やまもと いさお
山本 功

2014年度からの4年間、2代目の学部長を務めました。この間、学部設立時の先生の半数以上が定年等で退かれ、新たに着任された若い先生方の多い学部となりました。学際的であるがゆえの幅の広さと言語を共有する難しさ、「コミュニティ」という言葉の優しげな響きと生々しい地域社会のリアル、世界に羽ばたけと夢を語る言葉と日常を慈しむ地に根を張れと日常を慈しむ言葉。現実が矛盾に満ちていればこそ、それを何とかしようという営みも困難を伴います。そうした困難に立ち向かうのがコミュニティ政策学部でした。

学びを体現するとは、実社会で役立つ経験をする

現学部長

コミュニティ政策学部
かがみ さとし
鏡 諭

コミュニティ政策学部は、10年を迎えて多くの学びが地についてきた感があります。当初から3本の柱として、公務員・ビジネス・スポーツを掲げてきました。

入学する学生の半数近くが将来希望に公務員を掲げる現状から、大学として最大限のサポートを続けていきます。

同時にサービスラーニングを基本に、学生には現場で学ぶことの大切さを感じてほしいと考えます。学びを体現することは、頭で覚える事よりも、実社会で役立つより確かな経験となると確信しているからです。そして、これからも地域で活躍する様々な人材を育成していきます。

在学生より

高橋 駿（たかはし しゅん）
コミュニティ政策学部４年

学部開設10年おめでとうございます。座学やフィールドワークで幅広い分野を学んできましたが、このシンポジウムではコミュニティ政策を深く学べました。４月から社会人としてこれまで学んだことを生かし、地域に貢献できたらと思います。

太古 結香理（たこ ゆかり）
コミュニティ政策学部４年

学部開設10年おめでとうございます。さまざまなサービスラーニングで学んだ問題発見力と、自ら行動し解決する力を生かして信頼される人となり、人との繋がりを大切にして誰もが住みやすい地域づくりが出来る様に活躍していきます。

卒業生より

質　問

❶ 在学中の思い出
❷ 在学中に得たもの
　社会に出てから活用されている点
❸ 後輩へのメッセージあるいは10年に
　あたり一言

土田 優樹さん（2017年度卒）
オン・ジャパン 株式会社

❶ サークルやゼミの仲間と辛いことも楽しい事も沢山共有してきたことです。自分たちでやりたい事を立案して、少しずつ形を作っていくことに充実感を感じました。
❷ サービスラーニングをきっかけに、自分の興味のあること、やりたい事を探す視野が広がりました。
❸ 開設10年おめでとうございます。コミュニティ政策学部は様々な分野への道を切り開ける学部だと思っています。淑徳大学のコミュニティ政策学部に入ったからこそ、今の自分と仲間がいます。ここを卒業できて本当に良かったと思います。
　大学の4年間はあっという間です。卒業式で後悔しないように、とにかくいろんなことに触れて、沢山の人と出会ってください。今とこれからを大切に青春を謳歌してください。皆さんが充実した大学生活を送られる事を願っております。

廣澤 瑠里さん（2016年度卒）
千葉県内不動産業

❶ 在学中にバレーボールのクラブチームを作ったことです。現在も活動を続けておりミックスバレーやビーチバレー等、年間を通じて活動しています。
❷ 専攻したマーケティングのゼミでの学びは、在籍している企業において経営陣がどのような企業戦略を図っているのかを理解するうえで、貴重な財産となっています。
❸ 学生のいまだからできることを沢山してください。時間は有限ではありますが、社会にでると今ほど自由に時間を使うことはできません。後悔しない時間の使い方をしてください。
　また、これまでの10年とこれからの10年では、学部にとって求められる学びのポイントに変化が訪れるかもしれません。しかし、常に社会に目を向けているコミュニティ政策学部であれば、益々の発展をされることと思います。

大谷 真優さん（2017年度卒）
八街市役所

❶ 公務員試験対策です。通常の講座や勉強合宿など様々なプログラムに参加しました。思い通りの結果を出すことができず苦労する時期もありましたが、今ではとても良い思い出となっています。
❷ 何事も積極的に取り組み、たとえ困難な状況に直面しても最後までやり遂げる「責任感」を身に付けました。サービスラーニングやゼミなど様々な活動を通して身に付けた強い責任感は、4年間で得た財産であると考えています。
❸ 淑徳大学では、たくさんの学びだけでなく、どんなときでも応援してくださる先生方や共に学ぶ仲間たちのように、多くの出会いがあります。4年間で出会う人を大切にしてください。皆さんの今後のご活躍、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

小松崎 里江さん（2016年度卒）
株式会社 ケーズホールディングス

❶ 車いすバスケットボール大会の実行委員をはじめ、様々なサービスラーニングの活動に携われたことです。学生という枠にとらわれず、自ら考え行動し築いたつながりに価値を感じるからです。
❷ 大学時代に培った“とにかく、やってみる”という逃げない姿勢は、やる前から失敗や恥を恐れ挑戦することに後ろ向きになりそうな自分を奮い立たせてくれる私の原動力です。
❸「目標に向けて必死になる、仲間と呼べるような絆を紡ぐ」何か1つでも揺るがない自分にとって大切なものを見出し、人生の糧にしていって欲しいです。先輩方から受け取ったバトンを次の代に繋げていることを嬉しく思います。今後ともそのバトンを落とすことなく次の代へと繋げていってほしいです。

谷内 正義さん（2018年度卒）
松戸市消防局

❶ ゼミ合宿とゼミ活動で市民運動会の設営などをしたことです。大変でしたが、現在の地域の方々と密接に関わる仕事にもつながっていると感じています。
❷ サービスラーニングを通して行った様々な体験学習は、現在の業務においてもコミュニケーション力を培う経験となりました。
❸ 幼い頃から消防士になりたいという夢がありました。本格的に将来について考え悩んでいる際、様々な分野の先生から親身にアドバイスをいただいたことで視野が広がり、目指すべき消防士としての将来像が定められました。ご指導いただけた環境に今でも感謝しております。最後となりますが、伝統あるコミュニティ政策学部がさらなる飛躍を遂げることを祈念しております。

加藤 史織さん（2013年度卒）
全国市長会

❶ シンポジウムを開催したことです。準備は大変でしたが、達成感も大きく、一緒に取り組んだ仲間との出会いや経験はかけがえのない財産になりました。
❷ 人との繋がりを大切にすることです。1人では困難でも互いに助け合うことで解決できることはたくさんあります。これは仕事を円滑に進めていくためにも大切なことだと感じています。
❸ 開設10年おめでとうございます。本学部の1期生であることを誇りに思います。4年間の思い出を胸に、社会で活躍できるよう励みたいと思います。皆さまが、どんな学生生活を送れるかは自分次第だと思います。学びも遊びも全力投球で悔いのない学生生活を送ってください。そして、ここでの出会いを生涯大切にしてください。

小川 達也さん（2014年度卒）
公益社団法人 船橋市清美公社

❶「大学野球」です。高校野球とは違い、よりレベルの高い環境で野球が出来たことにより、野球の技術以外の面でも充実した時間を過ごせたためです。
❷ 課題の提出期限や授業の時間、学校の規律を守ることの大切さや、人とのコミュニケーション能力が社会に出てから非常に大切になると実感しました。
❸ 今ある時間を大切にし、様々なことに挑戦し続け、自分の可能性を大いに広げてください。

穴山 広大さん（2015年度卒）
山武市役所

❶ 講義のなかで様々な自治体と学生の立場で関わることができるため、就職活動の際に参考となりました。
❷ 市役所の仕事の多くは法律に則り行われています。ゼミでの学習を通して、固いイメージの法律に抵抗なく学べるようになったことは仕事をするうえで役立っています。
❸ 大学には、色んなことを学べる機会と時間が沢山用意されていると思います。興味を持てる何かを見つけられるよう、学生生活楽しんでください。

東海林 隼人さん（2013年度卒）
株式会社 トヨタレンタリース千葉

東海林（旧姓 繁田）成美さん（2013年度卒）
ハリウッド 株式会社

❶ 先生たちとの距離が近い事に驚いたことはいまだに一番の思い出です。
　先日、披露宴を挙げましたが、3人の恩師にご列席頂き、今でもお酒を飲みに連れてってくださり本当に感謝しております。
❷ 千葉国体のボランティアで経験した、体が不自由な方々への対応です。営業をやって早6年目になりますが、1人ひとり対応を変えたり、臨機応変に気を利かせる事を学んだことで、お客様への迅速な対応が出来るようになっています。今でも大学時代のボランティア経験が大きかったと思います。
❸ 開設10年おめでとうございます。1期生として入学してから早10年・・・年取りました（笑）

※先日、同じ1期生である東海林隼人さんと（旧姓）繁田 成美さんが結婚されました。教職員一同、末永いお幸せをお祈りしております。

コミュニティ政策学部、10年の軌跡

コミュニティ政策学部の実践的な学びをコーディネートするサービスラーニングセンターの取り組み及び国や自治体との連携・補助事業等を紹介します

2019
- 教育連携協定の締結（千葉県立生浜高等学校）
- 内閣府「地方と東京圏の大学生対流促進事業」に採択、対流事業開始
- せんどう・キリンビバレッジ「生茶に合うお弁当開発」プロジェクト開始

2018
- 学生提案プロジェクト（パラスポーツ体験・交流プロジェクト）

2017
- 包括協定の締結（千葉市、酒々井町）
- 「コミュニティ研究」の活動が松戸市社会福祉協議会会長表彰
- 千葉市稲毛区地域活性化支援事業（地域交流事業）に採択
- 「学生提案プロジェクト」開始（しゅくとも、みんなのおもちゃばこ）（継続中）
- 千葉市「パラスポーツ交流会」に参画開始（継続中）
- 千葉ジェッツ連携プロジェクト開始（継続中）

2016
- 千葉キャンパス内に参議院選挙期日前投票所を開設
- 千葉市緑区地域活性化支援事業（みんなの広場）に参画（2018年度まで）

2015
- Let's Enjoyそがプロジェクト開始（継続中）
- 東京ガールズコレクションプロジェクト開始
- 学生が国勢調査員として活動

2014
- 包括協定の締結（笠間市）
- 千葉市中央区地域活性化支援事業（白旗活性化プロジェクト）に採択（2016年度まで）
- 地方創生グルメ　六次産業化プロジェクト（2015年度まで）
- 千葉駅前イルミネーション（ルミラージュちば）プロジェクト
- ホテル・セール＆プランニングセミナー開始（継続中）
- ジェフ かざぐるまプロジェクト開始（継続中）

2013
- コンビニ防犯ボックス開所
- しゅくとく少年少女サッカー教室開催
- スポッツプロジェクト（少年少女野球教室）開催

2012
- 包括協定の締結（生実町町内会）
- 千葉日報社「CHIBA UNIVERSITY PRESS」開始（継続中）
- 公務員対策特別講座開始（継続中）
- 第1回長谷川良信記念車椅子バスケットボール全国選抜大会を開催（2020年に第9回大会を開催）

2011
- 東日本大震災　宮城県石巻市雄勝町大須小学校避難所ボランティア
- 中央区ふるさと祭りに参画（2015年度まで）
- 千葉都市モノレール「ひとにやさしいモノレールフォーラム」開催（千葉都市モノレールプロジェクト（2014年度まで））

2010
- 包括協定の締結（常盤平団地自治会、ジェフユナイテッド㈱）
- 相互連携協定の締結（千葉市）
- 千葉ロッテマリーンズ淑徳大学スペシャルナイター開始（継続中）
- 白旗活性化プロジェクト開始（継続中）
- ゆめ半島千葉大会ボランティア活動（学部1年生全員）

淑徳人 No.229

MATSUMOTO Erina

松本 恵理奈さん

総合病院 国保旭中央病院　勤務

子どもの頃に入院した経験から病院で働く管理栄養士を志した松本さん。就職活動では、ゼミの先生からの1本の電話が彼女の運命を変えました。強い気持ちと先生との信頼関係が生んだご縁、そして淑徳大学での学びを活かし、多くの患者さんに食事の大切さや正しい知識を伝えています。

2016年 看護栄養学部栄養学科卒業（1期生）。在学中に管理栄養士の国家試験を受験し合格。現在は患者さんへの栄養指導や、医師や看護師などと連携した食の改善に取り組んでいます。

管理栄養士として、キャリアを磨き上げたい

指導というよりは相談に、高齢の方にも分かりやすい資料を

松本さんのお仕事は、病院の外来や入院患者さんの疾患に合わせ、個別に栄養指導を行うこと。松本さんは「指導というよりは相談になるように、患者さんのやる気を引き出せるように意識しています」と話し、色鮮やかでイラストの入った資料を見せてくれました。

「資料を見て興味を持ってくれるように、患者さんの気持ちを考えて作りました。大学時代にたくさんパワーポイントを使ってレポート作成していた経験が生きています」。

実験授業の面白さに惹かれて、オープンキャンパスには5回参加

小学校の頃、胃腸系の病気で入院した時、管理栄養士さんに食事や栄養のお話を伺ったことがきっかけで、管理栄養士を志し、「高校2年生の時、淑徳大学に栄養学科が開設されることをしりました。毎回異なる体験授業は面白くて、オープンキャンパスは5回くらい行きました。キャンパスの新しさや雰囲気にも惹かれました」と当時を振り返ります。入学後は、大学を紹介する「アスタッフ」にも参加。ゼミの取組みとして「減塩弁当」を考案、実際にファミリーマートで「淑徳学監修」という形で販売されたのも良い思い出です。

就職活動を支えてくれたゼミの先生

1期生で、就職実績や頼れる先がおらず、求人数が少ないことあり、就職活動は苦戦しました。えてくれたのは、日頃から相談乗ってくれたゼミの桑原節子先（現栄養学科長）でした。「桑原先生から1本の電話をいただき、旭中央病院の募集を知りました。その時は病院がどこにあるかも知りませんでしたが、先生への信頼から、その場で『試験を受けたいです』と即答しました」そのご縁を呼び込んだのは、高校1年生から大学の卒業直前までの7年間、地元のケーキ屋さんでのアルバイトや、1つの場所でキャリアを積むために異動のない病院に志望を絞った松本さんの、一度決めたら貫く生き方かもしれません。

恩師への相談、後輩の就職支援で今でもキャンパスに足を運ぶ

今でも続く淑徳大学との強いつながりがあります。学会の発表や、将来ガンに関する専門資格を取りたいという希望から、桑原先生を訪ねます。「恩師の桑原先生も病院の第一線で勤務されていて、本も読ませて頂きました。社会人になってからも、研究室で相談させて頂いています」。勤務先の病院では淑徳大学の実習生を受け入れており、今年は職場に大学の後輩も入職してきました。

1期生として第一線の現場で働く松本さんは、今年2月に千葉第二キャンパスで開催される1～3年生向けの就職イベントに登壇予定です。

Photo × Photo

大学1年生、初めて白衣を着た授業にて。グループのみんなと新品のフードモデルと共に記念撮影しました。

卒業前に、栄養学科1期生みんなで記念撮影。みんなと授業を受けるのもあと少しなんだなと、少し寂しく感じていました。

在学中はもちろん、卒業後にもとてもお世話になっている恩師の桑原先生と。1期生としての不安もありましたが、無事に晴れの姿をお見せすることが出来て良かったです。

ともいきのこころ

長谷川良信先生の足跡（そくせき）・3

～写真から広がる長谷川良信先生の世界～

淑徳大学所蔵

長谷川良信先生

写真スポット

2019年9月～10月、各地で台風被害に見舞われました。今から100年ほど前の1917年にも大きな台風被害があり、良信先生は率先して被災地へ入られています。

右の写真は、その近い時期に撮影され（1920年頃）、前列中央に良信先生、左右に里見達雄氏（大乗淑徳学園理事）・小野説愛氏（安房保育園創設者）が座っておられます。

1 台風襲来

大正6年（1917）、9月30日夜半から関東地方に接近していた台風は、10月1日午前には暴風に加え、すさまじい豪雨をもたらしました。

台風による高潮の影響も受けて、東京湾岸地域の深川一帯、南葛飾郡（葛飾区・江戸川区、および墨田・江東・足立区の一部）、千葉県の一部は未曾有の大災害となりました。

2 被災地へ

若き良信先生は、宗教大学（現大正大学）出身者と研究生の団体「青年丁巳会」をこの年6月に発足させていました。

水害がおきた直後に、良信先生はこの会の会議を開き、政府関係機関や民間の救援が及んでいない南葛飾に率先して現地調査をかねて出向いていきました。ここで2日かけて慰問をおこなっています。

再度の会議を開いて、被災地での活動を実施することを決定します。良信先生らは学生らと、砂村（現江東区東部、南砂町駅北側のゼロメートル地帯にあたる）もしくは南葛飾地方の被災地で1週間ないし10日、天幕を張って活動する方針を決めていきます。

被害は日がたつにつれて明らかになり、10日までに判明した状況は、死者502名、行方不明は46名、家屋の全壊3,607棟にのぼりました（東京府）。

3 被災地での支援

激甚被害地の中割（江戸川区東葛西）・東宇喜田（同区南西部）・砂村に出張所が設けられ、そこを拠点に活動がはじまります。

良信先生は水害で亡くなった方たちを収容し、僧侶として葬式を執りおこなっています。学生との活動は、戸別訪問・救護者の連絡、さらに手紙の代筆や浄土宗本部から送られてくる寄贈品の配付にいたるまで幅広いものでした。

砂村出張所では10月8日から昼間の保育、9日からは無料浴場も開始します。

4 活動に対する評価

良信先生は10月6日から19日にかけ9回にわたり現地に入っていますが、じつは病気をおしての活動でした。

そのようななか、率先して被災地に入り、情報収集をおこない、支援の方針をきめていきます。どこの機関もだれも支援に入っていなかった激甚地に支援に入り、そのときの状況に応じ、住民の要請を受け止めて活動を進めていたことがわかります。こうした的確な活動をおこなったことは、当時から高く評価されています。

27歳のときの良信先生が行った瞬発力のある活動は、のちの社会事業の活動の根幹でした。

参考文献　長谷川匡俊『トゥギャザー ウィズ ヒムー 長谷川良信の生涯』新人物往来社　1992年
『浄土教報』

淑徳大学アーカイブズ特別展「祈りのすがた ― 交流する生者と死者 ―」へ学園内外の多くの方々にお越しいただき、お礼を申し上げます。
2020年3月15日まで、お申込みいただければ展示見学は可能です。
お申し込み先：https://www.shukutoku.ac.jp/shisetsu/archives/
電話　043-265-7526

千葉キャンパス 淑水記念館（1号館）3階　淑徳大学アーカイブズ

看護学研究科 第2回 公開講座が開講されました

10月17日（木）、東京大学大学院医学系研究科 真田 弘美教授をお招きして、「ケアイノベーション―ケアにおける技術革新―」についてご講演いただきました。

真田教授は、看護学と理学・工学とを融合させ、看護技術におけるイノベーションに取り組まれています。

今回のご講演では、そのケアイノベーションに関してのご紹介と臨床の現場にどのようにいかしていくかなどについてお話をいただきました。

ご紹介していただいたものの一つに、「体圧を常時測定しながら最適な内圧に自動調整をしてくれるロボティックマットレス」がありました。 看護学と異分野を融合させることで、新しい看護の可能性がまた一つ広がっていました。このような技術革新は、看護者のみならず患者さんにとっても様々な利益をもたらせてくれるものになるでしょう。

私たちが日々行っている看護も、「これがベスト」と奢ることなく、常によりよいものへとイノベーションしていく姿勢が大切であると感じました。

2019年度 栄養学科 卒業研究報告審査会

11月9日（土）に、栄養学科4年生による卒業研究報告審査会が行われました。学生自身が興味を持つ分野を卒業研究テーマとして選択し、研究や調査を重ねてきた集大成として成果発表する場が本報告審査会となります。今回は公衆栄養、臨床栄養学、食品学、栄養教育、公衆衛生、給食経営管理、調理学に関わる計26のテーマについて発表が行われました。

この日のために各研究室とも発表練習を繰り返し、本番では教員からの質問にも堂々と答えてくれました。今回の発表で新たに明らかになった課題や疑問点を付け加えながら、最終的な卒業論文として提出することとなります。今後は、2020年3月1日に行われる管理栄養士国家試験の合格に向けて学科一丸となって頑張っていきます！

千葉第二 CAMPUS

龍澤祭

手浴をして心地よい時間を過ごしていただきました

縁日ブースで子どもたちに体のことや食事に関するクイズやゲームで楽しんでもらいました

10月26日（土）・27日（日）、千葉キャンパスで龍澤祭が開催されました。看護栄養学部では、手浴、骨密度測定、縁日という企画で参加しました。前日に大雨に見舞われたこともあり帰宅困難となってしまった実行委員メンバーもいましたが、企画を楽しみにお越しくださる方々のことを想像しながら準備をすすめました。2日間を通して、200名超の来場者があり、それぞれの方々から「とても良かったよ。」「来年も必ず来ます。」など、嬉しい言葉をいただきました。毎年、看護栄養学部の企画に来てくださっているという方もおり、そのような方々との触れ合いは、心に沁みるものがありました。忙しい学業の合間をぬいながら準備を進めた実行委員にとっても、ボランティアで協力した学生にとっても、充実感のある龍澤祭となりました。

骨密度を測定しています

千 葉 CAMPUS

千葉市バリアフリー基本構想づくりへの参加

住民からの意見集約のお手伝い

若葉区役所入口、車いすでのバリアを認識

コミュニティ政策学部の松野ゼミでは千葉市バリアフリーへの取り組みに関わっています。10月2日（水）は、地域懇談会（花見川区・美浜区）へ参加し、地域の高齢者や障がい者から指摘されたバリアフリーの課題や改善策を整理するお手伝いをしました。

また、11月18日（月）に若葉区、11月25日（月）に稲毛区・花見川区のまち歩き点検ワークショップに参加しました。様々な障がいのある方たちと一緒に点検する過程で、普段は気づかない様々なバリアがあることを教えていただく貴重な機会となりました。実際の車いす体験で自分たちなりの気づきを得て、意見交換会で報告しました。

ここで得られた気づきは、千葉市バリアフリー基本構想に盛り込まれる予定です。

淑徳大学社会福祉学会 第29回 大会開催

11月30日（土）に大会テーマ『地域における権利擁護支援を進めるために―成年後見制度利用促進の現状と課題』にて学内学会が開催されました。大学院生により4題の研究発表、基調講演にて厚生労働省 成年後見制度利用促進室専門官 川端伸子氏に「成年後見制度利用促進の現状について」と題してご講演いただきました。講演後に「千葉県下における成年後見制度利用促進の現状と課題」をテーマにシンポジウムが行われました。シンポジストは、千葉県下で実践する専門職3名の方にお越しいただき、これまでの取り組みや現在の状況、今後の課題をご提示いただきました。参加者は、学部学生や福祉関係者など大勢の参加があり、盛会のうちに終了しました。

「おゆみ野caféこどものまちCBT」に参加しました

レストランの店員もお客さんも子どもです

調理の仕事は大人気。大人と学生がサポートします

コミュニティ政策学部の青柳ゼミと芹澤ゼミは、11月30日（土）「おゆみ野caféこどものまちCBT」の運営に参加しました。7月末から地域の小学生スタッフ約30名と地域住民、大学生が協力して準備を進めてきました。CBTとはChiBa Townの略で、10年前に千葉市中央区で始まった「こどものまち」の子どもスタッフが決めたものです。おゆみ野での開催は５回目。370人の子どもが参加してくれました。子どもたちは市民登録後、保護者から離れ「お仕事センター」で仕事を選び、一定時間働くことで得られるイベント通貨を使って遊んだり食事をしたりします。今年の「まち」には、小学生スタッフによる銀行やレストラン、神社等のほかに、小学生スタッフと大学生による「手話」を使ったカフェや留学生と日本人学生による「中国語教室」等も登場しました。

東京 CAMPUS

本学の姉妹法人マハヤナ学園　100周年記念式典にて司会

10月27日（日）に淑徳中学校・高等学校にて行われた「社会福祉法人マハヤナ学園創立100周年記念式典・法要」にて、表現学科3年生の櫛田健太さん、小杉綾佳さんが司会を務めました。今回の司会はS-naviを通じ表現学科の3年生、4年生に募集。その中から、二人が今回の記念すべき司会者に選ばれました。

当日は、音楽法要、記念式典、そして、ジャーナリストの池上彰先生による記念講演もありました。お客様をお迎えする側の一員ということで、二人もホスピタリティーをもって、式典に臨みました。一日の終わりには、多くの方々からお褒めの言葉をいただきました。

100周年という晴れの席で表現学科の学生が司会を仰せつかるのは、非常に光栄なことです。二人にとっても、淑徳大学の学祖長谷川良信先生が熱い想いで大正8年に始めたマハヤナ学園の歴史を知る良い機会にもなったようです。

多くの方々によって100年という歳月を今日まで繋いでくることができたマハヤナ学園（児童養護施設「マハヤナ学園 撫子園」、保育園「マハヤナ第二保育園」、学童保育「北前野小学校アイキッズ」）。マハヤナ学園に倣い、淑徳大学表現学科も、その歴史を未来へ末永く繋いでいってほしいと思います。

歴史学科学園祭企画　研究報告会

研究報告をした3年次生だけではなく、多くの来場者に恵まれ、活発な質疑応答が繰り広げられました。

11月23日（土）、24日（日）の両日に開催された淑徳祭。歴史学科では3年次生の研究報告会が開催されました。各ゼミナールに所属する3年次生全員が、この日に向けて研究発表用のポスターを作成。4年次に予定されている卒業論文執筆の前提となる研究ポスターだけに、力作が揃いました。ポスター発表と並行して展示された1年次生の「新書POP大賞」とともに、これまでの研究成果を披露しました。

併せて当日には、各ゼミナールから選ばれた学生によって、口頭による研究報告も実施。会場には、今春からのゼミ配属を控えた2年次生を中心として、1年次生や高校生の姿もあり、報告のあとには熱心に質疑応答をする場面も。実りの多い企画となりました。

今回で4回目となった研究報告企画。回を重ねるごとに、各ゼミそれぞれの持ち味が発揮されるようになってきました。歴史学科の歴史をつくる研究が、ここから生まれるものと期待されます。

埼玉 CAMPUS

救命救急講習が行われました

11月1日(金)、埼玉キャンパス体育館で、教育学部こども教育学科の2年生全員を対象に、「救命救急講習」が行われました。講習は、日本赤十字社埼玉県支部に依頼して実施しています。

講習内容は、一次救命処置に関することで、心肺蘇生及びAED(自動体外式除細動器）の使用法並びに気道異物の除去等です。成人に対する処置の後、特に乳児及び幼児に対する処置の講習を受けます。

学校や保育所、その他の施設等で働くことになるこども教育学科の学生全員に、必ず習得しておいて欲しいという趣旨で、毎年、2年生を対象として行っています。

人工呼吸用マスクを人形に装着しています

学生は、3人１組になって、人形を使って実技を実践しながら学びます。専門のインストラクターのもと、真剣な表情で、周囲の安全確認や声かけから始めて、心臓マッサージや人工呼吸などに取り組んでいました。

就勝合宿を行いました

10月5日（土）から6日（日）にかけて、ウィナーズハウス（森林公園）において就【勝】合宿を行いました。参加者は経営学部の3年生39名です。ベストセラーである「7つの習慣」を題材にしながら就職活動について考えました。「自分を見つめなおす」ことをテーマにして、自分の強みや弱みを知り、会社選びのコツを学びました。

そして、2日目の最後には合宿の総仕上げとして履歴書の自己PR欄の記入をしました。自己PRは多くの就活生にとってどうやって書けばよいのか分からない、履歴書を書く上で一番のハードルになる部分です。しかし、その一方でここがしっかり書ければ面接でも自分を売り込んでいけます。

参加した学生からは、「就職活動へのモチベーションが上がったと共に、どのように就職活動に取り組んでいけばいいのかが分かった」という声が挙がりました。

ワークを通じて、自分を見つめ直すきっかけとなりました

Together
229
The Shukutoku University Newsletter
発行日：2020年1月1日　編集：大学広報編集委員会　発行：大学事務局　制作協力：株式会社図書出版

知識モリモリ × 福祉の仕事

ソーシャルワーカーを活用しよう

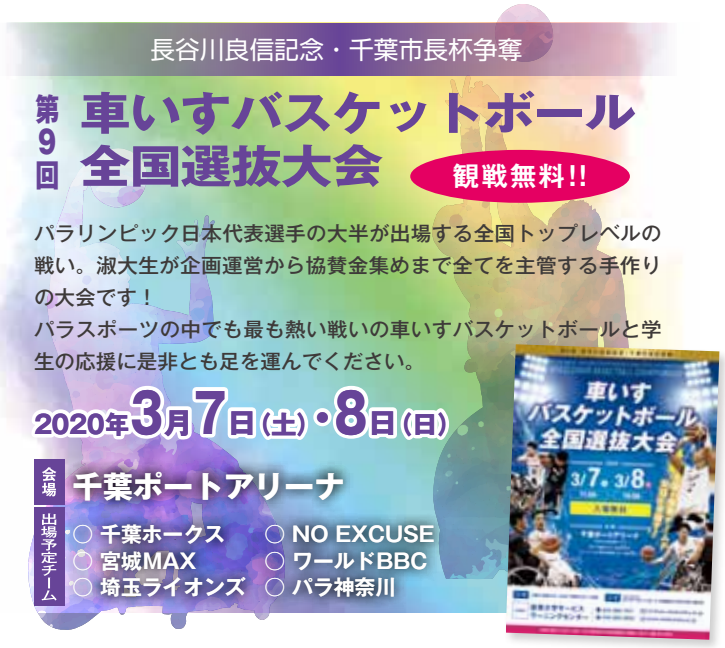
第25回 資格は仕事にどのように活かされるのか

総合福祉学部 社会福祉学科
佐藤 俊一 教授

社会福祉士の資格ができて、すでに30年以上が経過しました。精神保健福祉士も含めて、ソーシャルワーカーの有資格者は32万人を超えています（2019年10月末現在）。

資格は、仕事をするために必要なものであり、運転免許証のようなものだと思ってください。ただし、名称独占資格のため、就職のために取得を義務づけられているところは限られているのが現状です。地域包括支援センターのように必置性になると、配置がより広がっていくはずです。

専門職としての自覚をもって、クライエントや家族に**支援をする力を向上させていく**こと、それが有資格者に取り組んで欲しいことです。資格があるからこそ、クライエントの尊厳や人権を守るという使命感も高まります。また、実践が評価されることでソーシャルワーカーの社会的認知が高まり、多くの人に活用してもらえます。病院などでは、診療報酬等で経営に寄与することも出てきています。忘れてならないのは、仕事に活かすには、自己研鑽を欠かさないことです。仕事が終わった時間を活用して職能団体などの研修も、必要に応じて受けていくといいですね。



編集後記

中央教育審議会の「新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会」に提出された論点整理では、「多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びが実現」とうたわれています。一方、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」では、確かに「学修者本位の教育への転換」がうたわれていますが、上記の「誰一人取り残すことのない」や「個別最適化」という視点は含まれていません。答申に言う「多様で柔軟な教育プログラム」も、もちろん学生によるプログラム等の選択は前提ですが、現実の一人ひとりの学生に合わせて教育を運営するという視点は薄いようです。すなわち、文部科学省は、初等中等教育と高等教育のシステムのギャップを前提にしているようです。

しかし、教育の現場について言えば、大学教育もまた、現実に学生となった一人ひとりに応じたものとして運営する視点が基礎になければならないと思います。

ひるがえって、本学の建学の精神にある「恩」は、一人ひとりが受けている無限に多くの原因・条件がそれぞれ異なったものであること、それによってある一人ひとりが独自性を有するものであることを含意します。

今後の教育の現場において、もちろん大学教育を含めて、この基本認識は重要な意味を持つでしょう。この冊子もその認識を広めるメディアとして働くものであれば良いと、個人的には思っています。（吉田昌弘）

「淑徳大学広報誌」に関するご意見、ご感想などのメールをお待ちしております！　reply@soc.shukutoku.ac.jp

千葉キャンパス
総合福祉学部　コミュニティ政策学部　大学院 総合福祉研究科
〒260-8701 千葉県千葉市中央区大巌寺町200
TEL：043-265-7331

埼玉キャンパス
経営学部　教育学部
〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1
TEL：049-274-1511

千葉第二キャンパス
看護栄養学部　大学院 看護学研究科
〒260-8703 千葉県千葉市中央区仁戸名町673
TEL：043-305-1881

東京キャンパス
人文学部　淑徳大学短期大学部
〒174-0063 東京都板橋区前野町6-36-4
TEL：03-3966-7631